

伝聞「なり」体

意思「む」終

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて

サ変・終

四段・体

サ変・用 上二(補助動)・未

断定「なり」終

師走(しわす)

するなり。その年の、十二月の二十日あまり一日の

サ変・体

九三四年(わざとぼかしてある)

(うぬ)

日の戌の時に門出す。

午後八時ごろ サ変・終

ナリ活用・用

そのよし、**い**させさか**に**もの**に**書き**つ**く。

ほんの少し

下二・終

(あがた)

ある人、**四**年の**五**年果**て**て、例のことどもみなし

紀貫之

国司の任期

下二・用

(げゆ)

**終**へて、**解**由など**取**りて、住む館より**出**て、船に

下二・用

四段・用

下二・用

当然「べし」体

**乗**るべき所へ**渡**る。

四段・終

四段・終

ここ数年

(国司として赴任した四、五年を指す)

かれこれ、**知**る**知**らぬ、**送**りす。年ごろ、

ク活用・用

四段・体 四段・未

サ変・終

← 下二・用 完了「つ」体

**よ**く**く**ら**べ**つる人々**な**む、**別**れ**難**く**思**ひて、

親しく付き合ってきた

係助詞↓結ひは「思ひける」となるはずだが、「思ひて」となって消滅している。

日ひきりりにとかくくししつつ、**お**ののつつきたた、

サ変・用

四段・体

完了「ぬ」終

夜**更**けぬ。

下二・用

(うぬ)

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。

ナリ活用・用 四段・終

断定「なり」已(むま)

藤原のときぞね、船路なれど、**馬**のはなむけ**す**。

言葉の矛盾のことを言っている。

餓別のことを指す。

船旅なので馬には乗らないので

上中下、**酔**ひ飽ききて、**う**つめややしく、潮海のほとり

満足する

シク活用・用

四段・已 完了「り」終

にて、**あ**ざれ**あ**へり。

「あざれ」には「むげける」という意味と「腐る」という二つの意味がある。

掛詞的な表現。また、直前にある「潮海」は塩水なので腐らないはずなのに、

と「う」面白も加えている。

男の人も書くと言っている日記というものを女の私も書いてみようと思つて書くのである。

その年の十二月二十一日の、

午後八時頃に出発する。

その様子をほんの少しものに書き付ける。

ある人が、国司の四、五年の任期を終えて慣例となつている引継ぎの事務などを全て終わらせて、解由状などを受け取つて住んでいる屋敷から出て、

船に乗るはずの場所へ移る。あの人もこの人も、

知っている人も知らない人も、見送りをする。

この数年間

仲良く付き合ってきた人々が、別れをつらく思つて、

一日中あれやこれやと(世話をやいて)して騒いでいるうちに

夜が更けてしまった。

二十二日に、和泉の国まで無事にと、神仏に祈る。

藤原のときぞねが船路であるが馬のはなむけをする。

身分の上中下、問わず、すっかり酔っぱらつて、たいへんみっともなく、海のほとりで

ふざけあつた。